

C^xhallenge スマートワーク・^{これ}ダイジェスト

働き方改革で進めてきた労働生産性向上の取組を継続しつつ、職員が意欲を持って活躍できる環境づくりや多様な主体との共創などの観点を加えた新たな働き方(共創促進しごと改革)の実現に向けて、職員一人ひとりが意識し、実践するポイントをまとめました。

- 県庁全体の労働生産性を高めて生み出した時間を、より一層の県民サービスの向上につなげよう
- 全ての職員が意欲を持って活躍できる職場づくりを目指そう
- 多様な主体と連携し、県民ニーズに的確に対応できる施策を生み出していこう



業務の進め方

労働生産性を高めるためには、効率的な時間の使い方やデジタルの活用など従来の業務の進め方を見直す視点が重要です。

タイムマネジメント

- ◆ 業務は原則定時まで完了
- ◆ Outlookでスケジュールの見える化、全職員で共有
- ◆ 会議など資料は事前に共有、会議は勤務時間内に原則30分以内で

デジタルファースト

- ◆ 行政手続のオンライン化を推進
- ◆ ペーパーレスで業務を完結
- ◆ 業務において生成AIを積極的に活用
ex. 情報収集・分析
資料作成・要約 等

業務改善・効率化

- ◆ 「やめる・へらす・やり方を変える」を意識し、業務改善やBPRを推進
- ◆ 業務改善・効率化の好事例(スマートワーク・アワード等)の積極的な導入



職場環境

意欲を持って働くためには、柔軟な働き方を取り入れるとともに、お互いに働きやすい職場環境とする視点が重要です。

柔軟な働き方

- ◆ ワーク・ライフ・バランスの実現
ex. テレワークの効果的な活用
フレックスタイム制の利用 等

設備等の効果的な活用

- ◆ 執務室外や外出先でもモバイルPC(チャットやTeams通話)を活用し、円滑かつ速やかに報告・連絡・相談

相手への適切な配慮

- ◆ 勤務時間外に電話はしない、対応しやすい庁内照会の実施等により、仕事を円滑に遂行



意識と行動

「共創」など新たな取組を積極的に進めるためには、未来志向を持ち、課題に挑戦する意識改革の視点が重要です。

コミュニケーション

- ◆ 上司や同僚と積極的にコミュニケーションをとり、業務を円滑に
- ◆ 県民や市町、企業など多様な主体と連携し、新たな視点で施策を立案

改革マインド

- ◆ 前例にとらわれず、更なる改革に果敢に挑戦
- ◆ 周りの職員の挑戦を後押し(失敗を恐れず挑戦できる職場づくり)

自律・対話・共有

自律・対話・共有は、職員の意識と行動を変えるための大切な視点です。今後、チャレンジプロジェクト(共創促進しごと改革)の中で具体的な取組等を明らかにし、本書をアップデートします。